日本パーソナリティ心理学会第85回常任理事会議事録

日時：2008年2月16日（土）15：00～19：00
場所：東洋大学2号館3階第1会議室
出席：杉山，浮谷，荒川，小塩，北村，首藤，川野，有光，中村，渡邊
　　坂元大会委員長
欠席：菅原，藤田，佐藤，松田
事務局：加藤

報告事項および審議事項

1　各種委員会報告

機関誌編集委員会

（1）活動状況
平成20年2月16日（土）に常任編集委員会を開催し，「パーソナリティ研究」第16巻3号の編集その他を審議が行われた。
（2）編集規程の改正について
印刷投稿の受付は平成20年3月31日をもって終了する。
編集規程の改正を「パーソナリティ研究」16巻2号および学会ホームページで予告。
(3)「パーソナリティ研究」第16巻2号の編集状況
掲載論文は16論文（原著5本，資料5本，展望1本，ショートレポート5本)。
(4)「パーソナリティ研究」第16巻3号の編集状況
1）採択状況
採択論文は16論文（特集原著3本，原著8本，資料3本，ショートレポート2本）
2）掲載論文
15論文（うち特集論文3本）を16巻3号に掲載することが承認された。
（5）投稿状況，審査状況について
1）投稿状況
昨年4月以降の投稿状況は以下のとおりである。

年	月	原著	資料	ｼｮｰﾄﾚﾎﾟｰﾄ	展望他	合計	うち電子投稿	備考
2007	4	6	3	0	1	10	10	
	5	6	0	3	0	9	9	
	6	0	1	4	0	5	5	
	7	0	2	2	0	4	4	
	8	5	0	2	0	7	7	
	9	5	0	1	0	6	5	
	10	2	1	3	0	6	5	
	11	5	1	1	0	7	7	
	12	0	1	1	0	2	2	
2008	1	4	0	2	0	7	6	
	2	4	0	1	0	5	4	2/12まで
合計		37	9	20	1	68	64	

2）審査状況

昨年 4 月以降の審査状況は以下のとおりである。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下	備考
2006/4	4	7	0	0	
5	3	9	0	2	
6	0	6	0	3	
7	1	16	2	1	
8	8	9	2	1	
9	2	9	1	0	
10	4	10	1	1	
11	3	10	1	1	
12	1	8	2	0	
2007/1	5	11	1	1	
2	2	2	0	1	2/14まで
合計	33	97	10	11	
			2008.2.14	審査中	39
				受付のみ	5

（6）その他報告事項

（1）論文転載

「パーソナリティ研究」16 巻 2 号および学会ホームページで会員に通知している。

（2）EBSCO からの問い合わせについて

機関誌と国際交流委員会で調整のうえ，返信することで承認された。

（3）審査結果に対して返信のない投稿論文について

機関誌の申し合わせ案で対処することになった。具体的には「修正投稿審査依頼取り消し」を取り下げ扱いにする。

（4）広島大学からの機関誌リポジトリの問い合わせについて

常任理事会の申し合わせ（第 84 回常任理事会議事録）に基づき，事務局で対応することで承認された。

経常的研究交流委員会

（1）サイエンスカフェ企画

平成 20 年 3 月 22 日（土）午後 2 時～4 時に京都（アクエリアル京都／cafe bebe）にて実地する。

http://cafebebe.exblog.jp/　　ホームページ

企画担当：尾崎仁美（京都ノートルダム女子大学）　文野　洋（東京都立大学）

講師：　岡本依子先生（湘北短期大学保育学科）

テーマ「妊娠期の問題・胎動の意味づけなど」あるいは「乳幼児の子育て支援に関わって」など育児に関するテーマ

広報委員会

（1）委員交代

退任　文野洋・松田浩平・村上宣寛（2008 度 3 月まで）　東海林麗香（2008 年大会まで）

新任　佐藤恵美(白百合女子大学), 奥田雄一郎(共愛学園前橋国際大学), 毛新華(大阪大学)

継続　鈴木公啓, 小堀修, 安藤玲子, 外山美樹, 友野隆成, 荒川歩(2009 年 3 月まで)

　　大和田智文・山田幸恵・家島明彦・桑村幸恵(2010 年 3 月まで)

以上が承認された。

国際交流委員会

（1）ARP ニューズレターの件

Association for Research in Personality（ARP）のwebニューズレター, “P: The Online Newsletter for Personality Science” 第 2 号”P2”が 1 月に発行された。

ホームページはhttp://www.personality-arp.org/newsletter.htm

次号はテレビゲームに関する記事を投稿する予定である。

（2）海外研究者の招聘計画について

お茶の水女子大学 COE（国際交流委員の坂元先生）と連携して行う。

次回大会お茶の水女子大の大会時に講演およびシンポジウムを行う。

（3）出版依頼について

Yuichi Shoda, Daniel Cervone, Geraldine Downey (2007). Persons in Context: Building a Science of the Individual. Guilford Pr. の訳本の企画が倍風館から持ち込まれ, 現在委員会内で検討中である。

選挙規程委員会

選挙規程委員会の規程（案）が提案され，その趣旨について詳細な説明がなされ，議論された。それらの議論をまとめ，次回常任理事会に，修正案を提出することになった。

大会活性化委員会

次年度大会に向けて，組織化し，発表賞を継続することなどが承認された。

2　日本心理学諸学会連合

第 2 回諸学会連合第 2 回定例理事会についての報告がなされた。会則改正，新事務局設置にかかわる費用の多くを心理学検定費から支払うこと，日本心理学会の認定心理士と検定との関連について（連合の基礎資格として，認定心理士に裏書きする。これは，これまでの認定心理士にも遡及される），検定試験受験に関する情報は心理学会諸学会連合のＨＰから得られること，などが報告された。

3　臨床発達心理士関係

①認定運営機構

（1）発達臨床心理士

322 名の臨床発達心理士が承認された。合格率は 78.5％であった。

（2）資格の更新審査

更新の申請率は 86.4％であった。

（3）スーパーバイザー資格の立ち上げ

スーパーバイザー資格を立ち上げることとなり，2009 年度からの申請開始を予定している。

（4）臨床発達心理士会との共催シンポジウム

第 17 回大会で予定している。資格更新のためのポイントになる。

②資格認定委員会

2008 年度の活動予定について，報告がなされた。

③スーパーバイザー資格認定準備委員会

第 1 回の委員会が 2008 年 1 月 13 日に開催され，臨床発達心理士スーパーバイザー資格を設定などについての話し合いがなされた。

審査の方法：原則として毎年 1 回、申請者に対して書類審査を行う。

提出書類：臨床発達心理士資格を取得して 5 年が経過し、臨床発達心理士資格を少なくとも 1 回更新をした会員であることが必須である。

資格更新との関係：認定審査料と登録料をとる。
審査開始時期：2009 年度申請開始を予定している。
④機構との関係の検討について（継続課題）
　今後の機構との関係について，さまざまな側面から議論がなされ，この問題について検討委員会を立ち上げ，今年度中に決着をつけることになった。

4　事務局報告
（1）会勢報告
　賛助会員 1 名，名誉会員 5 名，一般会員 532 名，院生会員 250 名，学生会員 4 名，計 792 名である。
（2）新入会員
　10 月入会希望者 4 名　　11 月入会希望者 5 名　12 月入会希望者 4 名　1 月入会希望者 4 名
（3）宛先不明者についての報告がなされた。
（4）第 85 回常任理事会議事録が承認された。

5　その他
（1）次年度大会開催について
日程：2008 年 11 月 15 日（土）および 16 日（日）
会場：お茶の水女子大学キャンパス　懇親会は鳩山会館を予定している。
　坂元大会準備委員長より，大会の予定について，詳細な説明がなされ，学会との細かな打ち合わせがなされた。
（2）決算報告について
　理事長より，監事に対して，①　支出項目の運営の適切性について，各種委員会間のバラツキが適正範囲か，②　会議費の運営について，より厳しいガイドラインの検討が必要か，を含めて，監査していただきたい。
（3）第 18 回大会主催校について
　首藤副理事長より，第 18 回大会を川崎医療福祉大学での開催が提案され承認された。
（4）その他
なし

次回常任理事会は 4 月 26 日の 15 時から東洋大学にて開催を予定